

今年の

高卒就職状況

—新潟公共職業安定所に聞く—

不況の続く中で、高校生の就職状況も深刻です。

求職者があふれる新潟公共職業安定所（ハローワーク新潟）を訪問し、雇用確保、就職紹介と大忙しの新規学卒係の方にお聞きしました。

◆今年の高卒就職状況

新潟職安は中学から大学までの新規学卒求職者が、全県の四五%を占めています。そのうち高卒一次求人（九月末現在）は不況の深刻化で、求人は一八九一人（男七五四、女四二九、不問七〇八、前年三二二人）、内訳は管内一四二九、管外二一七、県外三四五人です。前年と比較すると、四一・三%の減となっています。

求職者は一〇八三人（男四九五、女五八八、前年比一六・〇%の減）で求人倍率は一・七五（前年二・五〇前年比〇・七五%減）です。

九月末現在の就職率（内定率）は男四六・一%、女三六・四%、計四〇・八%で、前年の五〇・一%と比較して一〇%近く減っています。一〇月末現在では、求人二〇二〇人（管内一五〇七、管外一四四、県外三六九）と、求人倍率一・九八、就職率六三・六%とやや持ち直してはきましたが、前年と比較しても依然として深刻な状況は変わっていません。

以前は新潟県は労働力供給県でしたが、近年は需要県に変わりました。とくに、新潟職安は管内の求職者に加えて管外（県下各職安）からの求職者が例年六〇〇〜七〇〇人います。

◆厳しさ増す高卒就職

今年は例年以上に、求人取り消しや採用が求人数を下回る事例が増えています。その理由については業績悪化というのが多い実態です。また、このところ高卒求職者の減少傾向が続く、企業では通年採用体制の導入を図る所も増加しつつあります。今年はバブル崩壊不況の影響で企業もリストラ傾向で求人が例年になく

落ち込みました。

最近の企業の採用傾向として、高卒者から大学・短大、専門学校卒に移行しつつあり、ここ二〜三年その傾向が著しくなってきました。これは大学・専門学校卒の方が多少給料が高くても、年齢の二〜四年の差は大きく社会・職場生活に対する適応性、定着の点で有利と判断していると思われます。高卒を含む新採用者を企業で教育するより、即戦力を求める傾向も強まっています。

◆フリーター志向強まる

就職難の現実のために就職意欲の減退傾向も出始め未就職者が増加しています。希望を曲げてまで就職しなくてもフリーターでいいというのが最近の傾向です。これらの者は臨時短期雇用、派遣企業へ向かうことが考えられますが、そうするとどうしても雇用不安定、労働条件の悪化が避けられません。職安としても雇用の確保のために企業への要請を精力的に行っているところ です。

生徒の中には職種にこだわったり、表面だけ見て応募先を選ぶ傾向があります。本人の希望と企業の採用条件との食い違いに気がつかないわけです。

企業側は応募書類よりは、実力主義というか面接を重視しています。どちらかというと男子は就職を決めたという意識が強いようですが、女子は事務、販売、サービス分野に希望が集中する関係から就職内定が遅くなる傾向があります。

◆今後の見通し

就職の機会均等ということ企業に要請していることもあり、以前あった指定校というのは少なくなっていますが、実質的に特定校から採用するということがあるかも知れません。また、男女不問となっても、実際は男子を採用するということますます女子の求人が少なくなってしまうです。

今年是一次求人についてはじめて「応募状況一覧表」を作成して各校に配布しました。一月二五日には「集団面接」を実施し、未就職者の就職斡旋を強化しています。各高校には生徒や保護者向けに就職講義を行い、三年担任の先生方と職安の学卒担当との懇談会を実施しています。

年を越すと学卒有効求人が少なくなるので、一月以降、一般求人について新卒者の受け入れ可能かどうかをお聞きし、可能であれば学歴別に情報提供していま

す。

根本的には景気的好転に期待しなければなりません。が、私たち職安をはじめ関係機関は求人確保のために大きな努力をしていますので、生徒諸君もこの深刻な事態を乗り越えて行かれるようにお願いしたいと思います。

高卒就職者の声

— 職安による

アンケート結果 —



◆学校に対して

職業相談について、先生方が一生懸命就職先を探してくれてうれしかったと感謝しながら、「求人票だけで分からないことをもっと教えてほしかった」、「求人票の見方、内容を先生自身にもっと理解してほしい」、「先生にもっとプロ意識を持ってほしい」と厳しい注文をつけています。もっと礼儀を教えてもらいたかった、より多くのパンフをそろえてほしい、職場見学などをもっとやって欲しかったと要望しています。いまの会社を選んだ理由としては、安定している三五・一%、労働条件がよい二〇・二%、仕事が自分に合う一六・〇%、他に適当なところがなく一二・八%、技術が身につけられる七・八%となっています。

◆会社に対して

仕事内容、労働時間については「仕事内容が多くて覚えられない」と悲鳴をあげ、仕事を最後まできちんと教えてほしい、仕事の流れを考えてほしい。「休日はずり休みにしてほしい」、「求人票にかいてあった始業時間を守ってほしい」、休みを増やして、完全週休二日制にしてと要望しています。

今年度高卒就職者アンケートの報告書を巻職業安定所よりいただきましたので概要を紹介します。高校生の就職意識や入社直後の様子が表れていて参考になるものと思います。

福利厚生について、行事が多すぎる、制服での通勤

をいいことにしてほしい、職場を禁煙に、職場をきれいに、クーラーを入れて、社員旅行をといっぱい要望があげられています。

先輩・上司に対して「人の動かし方がへた」「もう少し社員のことを考えてほしい」といっています。上司・先輩が親切という者は六九・七%、普通二七・一%でまあまあです。職場での悩みごとがあるとした者は四〇・二%、相談相手がいる六八・一%、いない三〇・七%と、はじめての実社会で人間関係になれるのに四苦八苦している様子が見られます。採用選考に関しては「求人票に仕事内容をくわしくかいてほしかった」「面接時にきちんと仕事内容を説明してほしかった」と、求人票と実際の仕事の食い違いをあげています。

仕事の満足度は、とても満足三五・九%、だいたい満足四一・〇%、少し不満一七・五%、とても不満五・六%となっています。勤務継続意志では、長く勤めたい三五・八%、いまの会社で別の仕事に変わりたい六・四%、やめたい九・二%、もう少したないと分からない四八・六%と、将来不安をにじませる結果となっているようです。

(小島寿夫・研究所所員)



(写真・船山厚治)